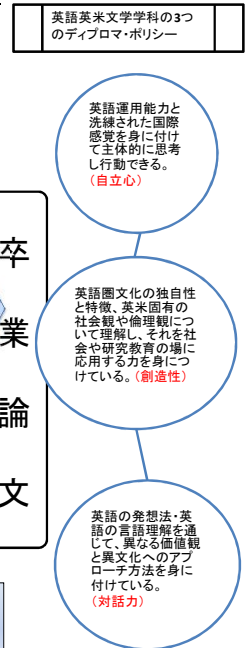


＜英語英米文学科のカリキュラム・ポリシー＞
 英語英米文学科では英語にかかわるあらゆる舞台上で活躍できる真に教養ある女性を育成するために、英語学習の多様な選択機会を与え、しかも学生ひとりひとりが自己実現できるように一貫性のある体系的カリキュラムを用意している。なお、本学科が謳う「英語学習の多様な選択機会」とは、社会が期待し学生が求める科目構成・教育内容の提供を指す。

分野	1回生		2回生		3回生		4回生			
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
全学共通教養科目	基礎科目・語学科目・情報科目・ウェルネス・一般科目・演習科目・大学関連連携科目									
学科共通科目	基礎力養成	基礎英語セミナーⅠ	基礎英語セミナーⅡ	英語セミナーⅠ	英語セミナーⅡ					
	専門的研究力の養成	発音トレーニングⅠ	発音トレーニングⅡ			文化・文学・語学セミナーⅠ	文化・文学・語学セミナーⅡ			
	資格試験対策	TOEIC TrainingⅠ	TOEIC TrainingⅡ	TOEIC TrainingⅢ	TOEIC TrainingⅣ	English for CareersⅠ	English for CareersⅡ			
	Intensive English Program	Speaking and ListeningⅠ	Speaking and ListeningⅡ	Oral PresentationⅠ	Oral PresentationⅡ	Oral presentationⅢ	Oral presentationⅣ			
		ReadingⅠ	ReadingⅡ	Intermediate WritingⅠ	Intermediate WritingⅡ	Advanced English SeminarⅠ	Advanced English SeminarⅡ			
Basic WritingⅠ	Basic WritingⅡ									
コア選択科目	英米文学	英文学入門Ⅰ	英文学入門Ⅱ	英文学Ⅰ	英文学Ⅱ	英米文学作品研究Ⅰ	英米文学作品研究Ⅱ			
		米文学入門Ⅰ	米文学入門Ⅱ	米文学Ⅰ	米文学Ⅱ	英語圏文学Ⅰ	英語圏文学Ⅱ			
	英米文化					イギリス文化研究	アメリカ文化研究			
						英米文化特殊講義Ⅰ	英米文化特殊講義Ⅱ			
	共通科目					比較文学・文化Ⅰ	比較文学・文化Ⅱ			
						翻訳演習Ⅰ	翻訳演習Ⅱ			
	英語学・英語教育コース	英語学	英語学入門Ⅰ	英語学入門Ⅱ	英語史Ⅰ	英語史Ⅱ	英語学研究Ⅰ	英語学研究Ⅱ		
							英語学特殊講義Ⅰ	英語学特殊講義Ⅱ		
		英語教育(中学校・高等学校)			英語科指導法Ⅰ	英語科指導法Ⅱ	英語科指導法Ⅲ	英語科指導法Ⅳ		
		英語教育(小学校)	小学校英語教育(演習)Ⅰ	小学校英語教育(演習)Ⅱ	【前期又は後期】 小学校外国語(英語)活動指導法	【前期又は後期】 小学校英語教育(実習)				
【前期又は後期】 Communication for Elementary English Classes Teaching English as a Foreign Language演習					国際コミュニケーション演習Ⅰ	国際コミュニケーション演習Ⅱ				



カリキュラムの特色①

共通科目の3つの柱
 (i) 英語を母語とするネイティブスピーカーの教員が、言語の4技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)にかかわる基本学習・応用学習に一貫してかわり、英語の言語能力の伸長をはかる一連の科目群(→Intensive English Program)
 (ii) 日本人教員による、英語の基礎力養成からアカデミック・スキルの育成を目指す授業群(→基礎力養成、専門的研究力の養成)
 (iii) 英語の資格試験対策に特化した授業(→資格試験対策)

カリキュラムの特色②

2つのコースのどちらの科目も自由に履修が可能。(緩やかな2コース制)

カリキュラムの特色③

全員に開かれたハイフイ大学へのセメスター留学

原則として希望者全員に対し、2回生の前期または後期にハイフイ大学への長期語学研修(約4か月間)を実施しており、留学前の指導・留学後の授業を併せて合計20単位分の単位読み替えを保証している。

＜英語学・英語教育コース＞

英語という言語の特性を理解し、かつ中学校教諭一種免許状(英語)・高等学校教諭一種免許状(英語)、さらに小学校英語指導者資格といった免許・資格取得を目指すための英語教育・英語実践のスキルを養成する。

＜英米文学・文化コース＞

英米を中心として英語圏社会の文学・歴史・文化の研究を通して、それぞれの社会に固有の特徴について理解を深め、言葉と文化への深い洞察と感受性を磨くことを目的としている。